

## 世田谷区民のアナウンサー！

世田谷区議会議員

## 石川ナオミ

((ナオミチャンネル))



皆さま、お変わりございませんか。  
 コロナ禍で会合や地域活動が中止となる中で、私は少しでも時間があるならば、力をつけて、もっと地域の皆さんのご期待に添えるようになりたい、、、  
 そんな思いで2年前に明治大学公共政策大学院に入学しました。この2年間、自治法や行政学、経済、社会福祉、教育、都市整備などのカリキュラムを通して政策立案や実施、評価に必要な知識を体系的に学ばせていただきました。大学院は夜の講義がほとんどでしたが、決して日常の業務に影響を及ぼしてはならないと、寝る間も惜しんで早朝に勉強をするなど議員としての仕事、家庭、学びに努めてまいりました。  
 このほど(2022年9月19日)に修了式があり、お陰様で無事に卒院することができました。しかし、学びはこれで終わりではありません。これからも独学でも驕らず謙虚に学び続けていきたいと思えます。大学院で得た学びを地域の皆さまのために活かしてまいります。議員となりまして8年、さらに地道に邁進していきたいと思えます。  
 引き続きのご指導・ご鞭撻をどうぞよろしくお願いたします。



優秀修士論文賞(リサーチペーパー)と最優秀成績賞を受賞することができました。明治大学大学院・市川宏雄名誉教授より主席修了の盾をいただきました。

石川ナオミ 区政報告

2022年 秋号 第014号

石川ナオミ

## 皆さまのお困りごとにも すぐに対応させていただきます。

一部ご紹介いたします。

こんな時、どこに言えばいいの？



都営住宅の自治会長さんから「団地の中を車が猛スピードで通行して危険」というご要望をいただきました。早速、行政に相談し、「カラーコーン」「徐行マーク」などの策で対応できました。都営住宅ということで、都議会議員との連携も図りながら進めてきた案件。「高齢者や子ども達の安全も守られます」と喜んでいただけました。



写真：世田谷区船橋4丁目団地▶

このような声に対応させていただき各所で実現しました。  
 スピーディーに行政につながります。

✉ info@naomi-ishikawa.com

おまかせ下さい!!



皆さまの声を お聞かせください



## 石川ナオミ事務所

〒156-0056 東京都世田谷区八幡山 3-23-26

TEL &amp; FAX : 03-5942-1285

Eメール : info@naomi-ishikawa.com

f <https://www.facebook.com/naoishikawa>

石川ナオミ

検索

ホームページ : [www.naomi-ishikawa.com](http://www.naomi-ishikawa.com)

公式ホームページ

## 編集後記

以前、八幡山町会主催で地域の歴史についてインタビューさせていただいた記事が冊子になりました。昔話を紐解くと、もっと地域が身近で愛おしくなります。次世代の子ども達にも地域の魅力、語り継いでいきたいですね。歴史は「記憶」だけでなく「記録」にも残す。こうしたインタビューに携わらせていただけて幸せです。ありがとうございます。



終戦後の娯楽として町の人が役者に!!

## プロフィール

アナウンサー・NHK キャスターを経てフリーアナウンサーに。官公庁・民間企業・大学等で講師として多数登壇。キャリアカウンセラーとしても活動。2008年 株式会社コミュ(人材育成会社)を設立、代表取締役。2015年「女性の目線から、もっと住みやすい街にしたい」と一念発起し世田谷区議会議員選挙において、公募での自民党公認をいただき出馬。常に笑顔を忘れず地道に謙虚に取り組むことをモットーに現在2期目。自民党区議団では唯一の女性議員として、今日も果敢に取り組んでいる。成城消防団第3分団員。

《委員》都市整備常任委員会委員長

災害・防犯・オウム問題等特別委員会委員

世田谷区消防団運営委員会委員

《資格》国家資格キャリアコンサルタント、NLP トレーナー、

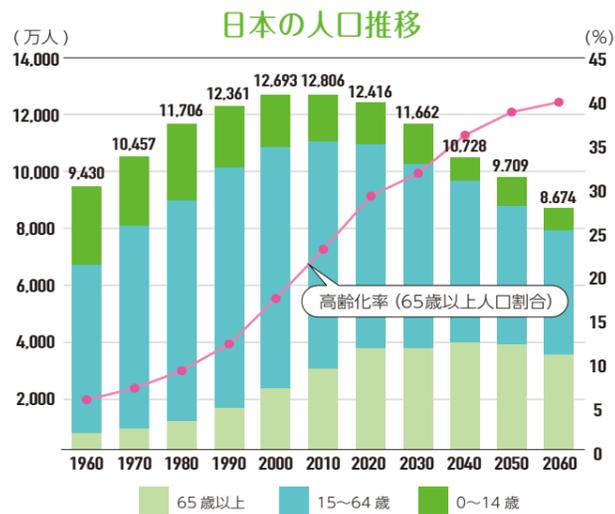
中学・高等学校教員免許、教育カウンセラー

# リカレント教育の推進を！

岸田総理が「人への投資」ということを国の骨太方針に掲げ今年度から3年間、4000億円規模の予算を組んで「リカレント教育」を強力に推進していくとしています。

この、リカレントとは「循環する」「繰り返す」という意味で、「学び直し」という言葉が馴染みあるかもしれませんね。学校教育からいったん離れて社会に出た後も、それぞれが必要なタイミングで再び、知識やスキルを学び直すこと、仕事と学びを交互に繰り返していくことです。北欧スウェーデンなどがリカレント教育の先進地ですが、日本は OECD の中でも最低水準にあります。

これからの政策に「人材育成」「教育」は必須です。子ども達の教育はもちろんのこと、学校教育だけではなく生涯に渡って主体的に学びながら、より良く生きること、その一環としてリカレント教育を進めていくことは重要です。今号は私の大学院での修士論文のテーマでもある「リカレント教育」についてわかりやすくお伝えします。

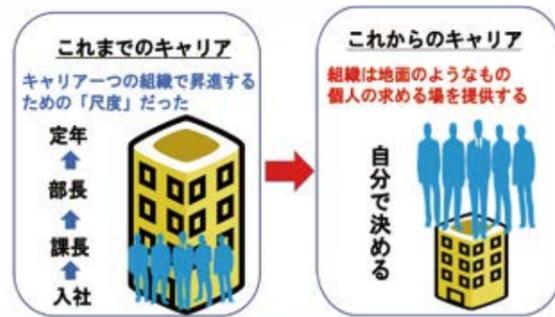


## 日本の出生率(%)

1970年	2.13	2010年	1.39	2018年	1.42
1980年	1.75	2015年	1.45	2019年	1.36
1990年	1.54	2016年	1.44	2020年	1.36
2000年	1.36	2017年	1.43	2021年	1.37

## なぜ、リカレント教育が注目されているのでしょうか？

**理由① 雇用形態が変化し多様化してきている**  
年功序列、終身雇用など、これまでの日本的なメンバーシップ型の雇用形態から、欧米型のジョブ型の雇用形態に少しずつ変化してきています。(※ジョブ型は職務に対して労働力を提供するという考え方)一つの会社や組織でキャリアを積むということではなく、リカレント教育で知識やスキルをアップデートしながら自身でキャリアを積み重ねていくという社会構造(転職・副職も含む)になると言われています。



## 理由② 出生率の低下

日本の総人口は、2010年の1億2,083万人をピークに減少へと向かっています。国立社会保障・人口問題研究所によると、2060年には8,674万人になるという試算が出ており、50年後の日本の人口は半減すると言われています。また生産年齢人口も4,418万人(45.9%減)にまで減少すると見込まれています。人生100年時代を生きていくためにも常に新しい知識や情報を習得して一人ひとりの生産性を高めていくことが求められる時代になってきました。

## 理由③ 人的資本への投資

国の成長戦略の考え方として「投資」という概念が変わってきました。これまで、日本の人材育成は「労務コスト」として捉えられていましたが、これからは、「人に対して投資」した企業が評価される時代になると言っても過言ではありません。

人への投資を強化して賃金の引き上げなどにもつなげていくことが求められています。リカレント教育は経済対策の一つとしても考えられています。

## リカレント教育を進めていくために必要な政策とは？

北欧で当たり前のリカレント教育が日本で進まない背景には「時間がない」「経済的余裕」「情報不足」があげられています。今こそ、仕事をしながらでも学べる環境整備、奨学金など支援拡充、個人に的確な情報を届けて学びにつなげる施策、などが必要です。また、コロナ禍によってオンラインで授業が受けられるなど「学び方」も多様になってきました。在宅勤務が可能になった時代。例えば、外出の困難な障がいのある方がオンライン等で新たなスキルを身につけ、職場にいなくても在宅で仕事ができるようにすれば就業の機会拡充にもつながります。また、楽しみながら学習することで認知機能を維持・改善することがわかっており、認知症予防になることが期待できます。明確なメリットが見えてくれば、積極的に学び直しをする人が増えてくるでしょう。

## 学びに年齢制限はありません

高齢者の方でも、障がいがあっても、どのような人でも、一人ひとりの豊かな生き方のために、今後、さらに、学びの機会と場を提供していくことが行政としても求められてきました。ひいては、リカレント教育を通して、次世代を担う子ども達においては、たとえ、一度や二度勉強でつまずいたり挫折したとしても「意欲」があれば、いつでも何でもチャレンジできる心を育てること、そして、個々の能力やスキルを輝かせる社会を作りたいと思います。議会等でも「リカレント教育推進の重要性」を訴え政策につなげています。



議会の一般質問でも取り上げました

## 「香害」「化学物質過敏症」をご存知でしょうか？

「香害」とは、合成洗剤や柔軟剤、香水などに含まれる合成香料(化学物質)によって、健康被害が生じることです。私たちが使う日用品には、様々な化学物質が使用されています。この「香害」が原因で「化学物質過敏症」を発症し、頭痛、めまい、アレルギー、喘息などの症状を引き起し「香り」によって苦しんでいる人がいます。



実際に、私も地域の方から切なる声、ご相談をいただきました。「香害」については、まだ認知度は低いのですが、子ども達の中でも健康被害が発症しており、ここ数年、学校などでも問題視されるようになってきました。香りの強さの感じ方には個人差があるということ、一人ひとり(周囲に困っている人がいるかもしれない)と意識していきたいですね。